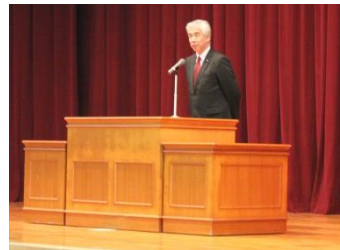


3学期始業式

『所与を必然と捉え、その必然を完全と捉え、完全を自由と見なす』

平成30年がスタートしました。時折小雪が舞う冷え込んだ3学期始業式。校長講話として次のようにお話がありました。

「平成30年になりました。私はこの年末年始の間に、高校時代の野球部の友人たちと会う機会があり、懐かしい話がありました。私たちの野球部の練習はとても厳しいものでしたが、不思議とその時の監督の言葉を良く覚えています。その中に「ミスが出てもかばい合うな、カバーし合え」という言葉があります。また、同じような意味だと思いますが、女子サッカーの選手だった澤穂希さんが、「苦しいときも一人ではない。苦しいときは私の背中を見て。」と話していたことを思い出しました。自分だけが苦しいのではない、自分が苦しいときは周りの人も苦しいんだ。そう考えると、“自分だけ”という考えは甘いのかもしれません。



もう一つ、学生のとくに読んだ中島敦の「悟浄歎異」の中に次のような内容があります。『「所与を必然と捉え、その必然を完全と捉え、完全を自由と見なす」：三蔵法師と悟空の生き方は違っているけれども、この一点では共通している』自分だけが苦しいと思って、その環境を変えてみても、変えた場面でまた不満が出る。今、この場面で一所懸命やろう



とすることが大事なのでしょう。皆それぞれ事情を抱えている。それは与えられた必然で、今この場でできることは何か、どうすべきかを考え行動してほしい。3年生は卒業までの残りわずかの高校生活、2年生はいよいよ進路実現に向けての最終学年が目の前、1年生は中堅学年としてスタートするための準備、それぞれが今やるべき事を考えて取り組んでほしいと思います。」